京都大学防災研究所
水資源環境研究センター

産学共同研究部門
ダム再生・流砂環境再生技術　研究領域

設立記念シンポジウム

日時：2024年5月30日（木）13:00-17:00

場所：京都大学宇治キャンパス
おうばくプラザきはだホール

ダム再生・流砂環境再生
技術開発プロジェクト

参加企業・財団
関西電力株式会社、電源開発株式会社、中部電力株式会社、九州電力株式会社
株式会社建設技術研究所、株式会社ニュージェック、西日本技術開発株式会社
一般財団法人水源地環境センター、一般財団法人ダム技術センター

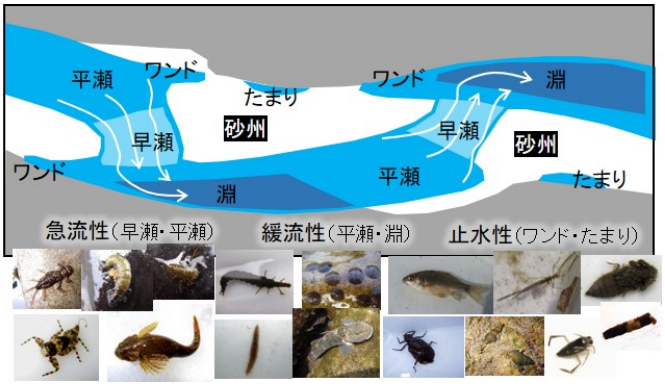
2018年の西日本豪雨や2019年の東日本台風以降、ダムの緊急放流が増加し、これを防ぐための事前放流が全国的に推進されています。一方で、現状ではダムの貯水容量には限りがあり、これをさらに有効活用するには、最新の気象予測情報を活用してダムの運用をさらに高度化したり、古いダムを改造して貯水容量を増やしたり、新たな放流設備を設置してより効果的な事前放流を実現させるための技術開発が求められます。このようなダムの運用高度化によって効果的に貯留された水は、次の洪水を見据えながらゆっくりと発電放流することで、増電効果をもたらすことが期待されます。

一方で、ダムには継続的に土砂が堆積してダムの機能を低下させるとともに、下流河川に本来流れるべき土砂を遮断する環境問題があります。これを踏まえて、近年ではダムの長寿命化と下流の河川や海岸に対する環境影響を軽減するための土砂供給をセットで実現する先進的なダムの堆砂対策が進められつつあります。

2024年4月に京都大学防災研究所は、気候変動下で激甚化する豪雨災害に備えたダムの洪水調節機能の強化や、国産の再生可能エネルギーとして改めて評価が高まっている水力発電の拡大に向けた既存ダムのハード・ソフトの様々な再生技術を開発し、国内外のプロジェクトへ実装を進めるための研究開発拠点（京都大学防災研究所水資源環境研究センター産学共同研究部門ダム再生・流砂環境再生技術研究領域）を設置しました。

ここでは、「治水」と「利水」のWIN-WINをもたらすためのダムを「賢く」、「増やして」使うための「ダム再生技術」、さらには、ダムを「永く」使うと同時に、河川や海岸環境の改善のためにダムから効果的に土砂を下流に供給する「流砂環境再生技術」について、関連する国の大型プロジェクトとも連携して研究開発を推進するとともに、若手技術者の育成にも取り組みます。

本シンポジウムは、その設立を記念して、その活動概要をご紹介するとともに、その背景となる国内外の動きについて情報提供を行うものです。



プログラム

国土交通省のダム再生事業
産学共同研究部門の概要紹介

（角　哲也　特定教授，有光　剛／恩田千早　特定准教授）

記念講演（アントン・シュライス　元国際大ダム会議総裁
(Prof. Anton J. Schleiss スイス連邦工科大学ローザンヌ校名誉教授)

参加申込：
Google Form
レセプションも予定
しています。併せてご参加ください。

最寄駅：
JR奈良線黄檗駅
徒歩５分